

2 0 2 5 年 度

香川大学経済学部学校推薦型選抜Ⅰ

問 題 冊 子

小論文

8 ページ

【注意事項】

1. 監督者の「解答始め」という指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 「解答始め」の合図と同時に、すべての解答用紙に受験番号を書くこと。
3. 落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は、黙って手を挙げて、監督者の指示を受けること。
4. 質問があるときやその他の用事があるときは、黙って手を挙げて、監督者の指示を受けること。
5. 解答用紙は、設問番号ごとに解答すること。
6. 解答は、解答用紙に横書きで記入すること。
7. 解答を訂正する場合は、きれいに消してから記入すること。
8. 解答用紙及び下書用紙は、片面のみを使用すること。

以下の文章を読み、設問Ⅰ、Ⅱに答えなさい。

①現代における最も重要な社会問題とは何か。現代社会は、地球環境の変化と市民の意識の変化に伴って、非常に多くの課題を抱える状況になっている。その主要なものは「サステナビリティ（持続可能性）」という理念に集約することができる。サステナビリティとは、環境、社会、経済の三つの側面を総合的に考慮し、未来世代にも十分な資源や環境条件を提供することを目指すのであればいけないという理念である。

例えば、環境的視点から、サステナビリティは、経済活動が環境に与える影響を最小限に抑え、生態系を保護することを目指す。森林伐採、生物多様性の減少が生態系に悪影響を及ぼしている状況を何とかしなければいけない。

中でも気候変動は最も深刻な環境問題である。地球温暖化が進行し、極端な気象事象や海面上昇が問題となる。気候変動問題の解決のため、CO₂（あるいは温室効果ガス）の排出をグローバルに削減し、化石燃料に頼らない持続可能なエネルギー方式へ転換しなければならない。

社会的視点から、サステナビリティは、貧困、格差、社会的不平等を深刻な社会問題と捉えて、公平な社会を追求し、誰もが機会と福祉にアクセスできることを目指す。健康や労働条件の改善、教育の普及、食品の安全、住環境の安全、社会的包摂^{（注1）}、人権の尊重など、生活の質の向上を目指す。

経済的視点から、サステナビリティは、鉱物資源、水、食料などの枯渇を重要課題とし、持続可能な資源管理を目指す。経済活動が未来世代にわたって持続可能であり、資源の適切な管理とともに、経済成長の健全性を、個人、企業、政府など、様々なステークホルダー（関係当事者）に求めていく。

産業革命以降、世界はこのようなサステナビリティに注意を払わず、気づきすらせずに経済的富の蓄積に邁進^{まいしん}してきた。その結果、現代において環境や社会は大きなダメージを受けている。経済発展によって、CO₂の排出量が劇的に増加し、気候変動が深刻化してきた。このままでは近い将来において、生物種絶滅や自然災害といった不可逆で壊滅的な被害が地球規模で起こり、環境、経済、社会といった様々な側面に大きなダメージが生じてしまう。

サステナビリティが意味する現代の社会問題は、総括すると、過度の経済成長の結果、環境問題が深刻化し、それが世界市民の経済的生活水準の問題を超えて生命や尊厳をもおびやかし、未来世代に不可逆な損失を与えてしまうことをいかに回避して、文化的に豊かな生活を持続させることができるか、ということだ。利己心と見えざる手^{（注2）}だけでは、これは解決されない。世界市民が意識的にこの解決に取り組まなければいけない。世界市民が未来世代を心配し、サステナビリティの大義^{（注3）}を持ってこの問題に深く関与しなければいけない。

サステナビリティは、世界市民に意識的な社会貢献をすることを強く求めている。このことは、見えざる手による経済発展とは対極にある。経済的富の無思慮な蓄積の行く末は、未来世代に不可逆で破壊的なダメージを及ぼすことに他ならない。経済発展が停止するだけではない。その帰結として市民の生存や尊厳が脅かされ、自然環境が破壊され、文化的な停滞が同時に起こる。これは地域ごとの問題ではなく、世界全体をまきこむカタストロフィ^(注4)である。世代や地域を超え、異なる文化や社会について相互に尊重し、みんながこのグローバル・カタストロフィの回避に参加しなければいけない。

2015年に国連（国際連合）において採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、全世界市民に向けて、サステナビリティのための目標をわかりやすく詳細かつ広範に示した。サステナビリティの実践のためのガイドラインである。SDGsは、環境、経済、社会の持続可能性に関する幅広い課題をカバーし、貧困と飢餓の撲滅、食の安全、健康の向上、良質な教育の提供、ジェンダー平等の達成、クリーンエネルギーへのアクセス、持続可能な都市の構築、清潔な水と衛生の利用可能性、気候変動への対策など、17の目標を示している。これらの目標は、さらに具体的な169のターゲットに細分化されている。それらは、先進国、発展途上国を問わず、全ての国々が取り組むべき普遍的な目標であり、経済、社会、環境という三つの側面の持続可能性を統合的に捉えている。

SDGsの17の目標は表に掲げた通りである。

サステナビリティは、もともと環境問題、特に気候変動対策に焦点を当てていたものの、環境だけでなく、経済や社会全体にわたる広範な問題を統合的に考えることを、非常に重視している。そのためSDGsには、気候変動とは直接関連しないように見える目標もたくさん含まれている。

SDGsが多岐にわたる目標を設定しているのは、持続可能な発展が、単一の問題に対する個別的な解決ではなく、多様な課題を包括的に解決することによってのみ達成できると考えられるからだ。気候変動に集中することは重要だが、それだけでは全ての人々が直面する課題に対処することはできない。経済的、社会的公正を含めることによって、より平等で公平な社会を目指し、それが最終的には持続可能な環境の実現につながる。

気候変動の影響は、貧困、飢餓、健康、清潔な水と衛生、エネルギー、経済成長、不平等など、多くの目標に深く関連している。CO₂排出削減に成功すると、気候変動の進行を遅らせることができ、極端な気象イベント、海面上昇、生物多様性の損失などといった一連の問題を緩和できる。食料安全保障、水資源の確保、健康への影響、住居の安全性など、他の多くのSDGsの目標に直接的な利益をもたらす。

表：SDGs の 17 の目標

1	貧困をなくそう
2	飢餓をゼロに
3	全ての人に健康と福祉を
4	質の高い教育をみんなに
5	ジェンダー平等を実現しよう
6	安全な水とトイレを世界中に
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに
8	働きがいも経済成長も
9	産業と技術革新の基盤をつくろう
10	人や国の不平等をなくそう
11	住み続けられるまちづくりを
12	つくる責任つかう責任
13	気候変動に具体的な対策を
14	海の豊かさを守ろう
15	陸の豊かさも守ろう
16	平和と公正を全ての人に
17	パートナーシップで目標を達成しよう

その一方で、他の SDGs の目標に取り組むことが、今度は気候変動の緩和や適応策の発見につながっていく。例えば、質の高い教育を提供することは、人々が気候変動の原因と影響を理解し、持続可能な生活様式を採用するための知識と技能を身に付けることにつながる。責任ある消費と生産に取り組むことは、資源の効率的な利用と廃棄物の削減を通じて、環境への負荷を軽減し、気候変動対策に貢献する。女性の社会参加の拡大は、地域社会の貧困削減や経済的安定に貢献し、持続可能な開発への道をより高みへと引き上げることができる。大事なのがこれらが全て相互に関連していることだ。

このような包括的な SDGs は、全世界市民に向けて、現代に必要とされるサステナビリティの大義についての方向性を示してくれる。世界市民には、個人としての立場に限らず、企業や組織、地域コミュニティ、政府、国際機関など様々な立場においても、SDGs に関連する社会貢献に意識的に、創造的に取り組むことが期待されるのである。

SDGs は各世界市民に対して、SDGs の目標のどれかに深く関連する大義の発見と実践を奨励することになる。しかし、その大義が他の目標を犠牲にして達成されることは慎まなければならない。そうならないように、全ての目標とのバランスを考えるこ

とが重要になる。そうすることによって、市民は世間からの信頼と評判を確保することができ、大義の実現をより確実にすることができる。SDGs は、大義、信頼、評判を有機的に結びつけることによって、とりわけ営利活動を通じて、サステナビリティへの取り組み自体が持続可能になる社会を目指すのである。

SDGs は、政府、民間セクター、市民社会が参加する多元的な取り組みと、様々なステークホルダーの協力関係を重視する。社会的目的の達成には多くのステークホルダーの関与が必要である。専門家でない人も、直接的な利害関係のなかった人もその中に含まれる。SDGs はこれらがよいハーモニーを奏するような仕組みの発見を促している。

また、SDGs は多様性と包摂性を重視する。世界市民は様々な世界観をもち、時には対立することもある。また世界観は時間を通じて変化もする。SDGs は多様な世界観とその変化を認めつつ、市民に価値観の共有を促し、サステナビリティからの恩恵と、サステナビリティへの貢献参加において「誰一人取り残さない」ことを求める。

2015 年に制定されたこの SDGs は既にとっても包括的であるが、時代の変化に応じてさらに更新される必要もある。例えば、現状の SDGs にはデジタル空間の課題に関する直接的な言及がない。目標 9（産業と技術革新の基盤をつくろう）では、インフラの質の向上、持続可能な産業化、イノベーションの促進が含まれている。これには間接的にデジタル・インフラストラクチャーの技術革新が含まれる。しかし、セキュリティ、プライバシー、情報格差といったデジタル空間に関する責任問題については対応が不十分である。これらに対処するため、今後 SDGs の枠組みを更新して、デジタル空間に関連する目標や指標を新たに設定することも必要だろう。デジタル空間がサステナビリティの実現に大きく貢献することが期待されるからだ。

資本主義は市場の効率と個人の利益追求に重点を置いてきた。しかし、SDGs はこれらを超えて、より広範な社会的、環境的な考慮を経済システムに組み込むことを促している。資本主義における経済活動が環境や社会に与える影響を認識し、資本主義における経済的な成功の定義を再検討して、より包括的で持続可能な発展への移行の仕方を模索することを促している。個人の利益だけでなく、環境保護、社会的公正、経済的公正を重視することで、資本主義に新たな大義をもたらすことを促している。

民主主義に対しても、個人の政治的自由を超えて、より広範な社会的責任に重点を置く大義が期待される。国民には、単に国内の政治的権利を行使するだけでなく、より大きな世界的なコミュニティの一員として行動することが求められる。例えば、気候変動は国境を越えた問題であり、その解決策も国際的な協力を必要とする。民主主義国家は、国際交渉に参加し、共通の目標に向かって努力することによって、グローバル・コミュニティに対して貢献しなければならない。

気候変動対策は、現世代だけでなく、将来世代の福祉にも影響を与える。長期的な

視点を持ち、未来のために責任を持つことが大切になる。また気候変動は、特に貧しい国々や脆弱なコミュニティに大きな影響を与える。民主主義国家は、公正と平等を促進するため、これらのコミュニティを支援することに責任を持たなければいけない。このような気候変動問題への対応は、個人の政治的自由を超えて、グローバル・コミュニティへの責任と貢献を目指す大義になる。

②サステナビリティの問題の多くは共通して「コモンズ（共有資源）」の問題と捉えることができる。コモンズとは、複数の人々が共同で利用する資源のことで、誰もが自由にアクセスし利用できるという特性を持っている。公共の牧草地、森林、漁場などはこれに直接的に該当する。コモンズはコミュニティにとって価値があり、適切な管理の下で共有されることによって、その価値を最大限に発揮することができる。しかし、個々の利用者の利己的な利益追求が、コミュニティ全体の長期的な利益を損なうという深刻な懸念が付きまとう。

この問題は「コモンズの悲劇」と呼ばれ、生態学者ギャレット・ハーディンによって、解決の難しい社会問題として1968年に提唱された。コモンズの悲劇は、過剰利用によって、共有資源が枯渇し、最終的には誰にとっても利用できなくなるというパラドックス^(注5)のことだ。コモンズの悲劇は、サステナビリティに関連する諸問題の解決がどれも容易ではないことを象徴的に捉えている。

例えば、共有の牧草地がある村を想像してほしい。各牧畜者が自分の利益のためにできるだけ多くの羊を牧草地に放つと、当初はそれぞれの利益になる。しかし、牧草地には限られた量の草しか生えておらず、過剰な数の羊によって草が過剰に食べ尽くされると、牧草地は荒れ果て、最終的には誰も羊を飼えなくなる。

各個人が自己の近視眼的な、短期的な利益のみを追求することで、最終的には共有資源が破壊され、全員が損をする、あるいは将来世代が損をする結果となる。このようなコモンズの悲劇を防ぐために、共有資源の適切な管理と規制が不可欠になる。

コモンズの悲劇は、様々な自然資源の過剰利用や環境破壊の背景にある本質を捉えている。例えば、気候変動問題においては大気が、地球上の全ての市民や国々によって共有されるコモンズになる。一部の国や企業が自身の利益のために大量のCO₂を排出すると、大気の変質によって、地球全体の気候システムに悪影響を与えてしまう。

水資源の枯渇もまた、コモンズの悲劇の重要なケースになる。農業、産業、都市開発における過剰な利用は水資源の枯渇を招いてしまう。特に乾燥地帯や人口密集地では、水の利用競争が激しく、長期的な水資源の安全保障に重大な脅威をもたらしている。

伝統的な経済学の知見からは、このようなコモンズの悲劇を解決するために、私有権の割り当てが提案されている。共有資源を個人または企業に私有財産として割り当

てて、資源の管理責任を所有者に委ねるという考え方だ。このような私有財産権が与えられると、所有者は資源を過剰に利用することの長期的なコストを直接負担することになるため、資源の持続可能な利用により関心を持つようになる。例えば、特定の漁場や森林を特定の漁師や林業者に割り当てることで、その資源の持続可能な管理を市場における経済活動に取り込むことができる。

さらに伝統的な経済学の知見から、市場の不備を補完するため、政府や公的機関がコモンズの利用に関するルールや制限を設けるといった、中央集権的な規制と管理も提案されている。政府は、利用可能な量の制限、アクセスの制限、特定の活動に対する許可制度といった規制や法律を通じて、資源の持続可能な利用を確保し、環境保護を強化する。漁獲量の制限、公共の牧草地での放牧頭数の制限などがこれに該当する。

しかし、これらの方法に頼ることには限界があり、適用が難しいケースも多い。例えば私有財産権の割り当ては、資源の分割が困難であるとか、不公平な資源配分を引き起こす可能性がある。私的財産権を割り当てられた人が、かえって自身の権利の行使が他者に及ぼす影響を考慮しなくなる恐れもあり、事態を悪化させかねない。また、政府による規制は、本来適切な規制の設計と実施に高いレベルの知識と監視を必要とするものである。しかし、えてして結果的には過剰な官僚主義や柔軟性の欠如を招いてしまう。

サステナビリティは、私的所有をベースとした市場的解決や中央集権的な政府の規制では対処しきれない。そのため、市場や政府とは別の方法、例えば、コミュニティの役割、公共意識の向上と教育、多様なステークホルダーによるパートナーシップ、多面的なイノベーションなどにも、強く期待することになる。

サステナビリティにおけるコモンズの悲劇は、環境問題に限るものではない。社会的側面においても、公共の場、文化的遺産、オンライン空間など、共有されるべき価値やサービスの多くはみなコモンズと捉えることができる。これらは、社会の構成員が自由にアクセスし、利用し、享受することができる資源だが、過剰利用や不適切な管理によって質が劣化するからだ。サステナビリティの経済的側面においても、金融市場の安定性や公共インフラは、共有されるべき資源であり、適切な管理と規制が不可欠になる。これらの資源の乱用や不公平なアクセスは、経済システム全体の持続可能性に悪影響を及ぼすことになる。これらの領域においてコモンズの考え方を適用することは、サステナビリティの諸問題をより広い視野で捉え、統合的な解決策を模索する上で不可欠である。

実際、サステナビリティの諸問題のほとんどはコモンズの悲劇になぞらえることができる。コモンズの悲劇を包含する、より広い範囲を扱う社会的ジレンマである「フリーライダー問題」と称されるインセンティブ^(注6)の欠如が、サステナビリティを阻む根本要因になっているからである。フリーライダー問題は、ある個人または団体が、

他者が負担するコストや努力にただ乗り（フリーライド）して、他者による社会貢献を無償で享受しようとする状況を指す。結果として、個人や団体は、社会問題の解決に自ら進んで貢献するインセンティブを失ってしまう。

例えば、公共放送の資金調達は、フリーライダー問題の典型例になる。公共放送が提供するコンテンツは、誰もが無料でアクセスできるならば、人々は利己的である限り、寄付や支払いをする動機を感じにくくなる。しかし、十分な資金がなければ、そのようなコンテンツは提供されなくなる。ここで、多くの人が利益を享受しながらも、コストの負担から逃れようとするフリーライダー行動が問題となる。この論理はコモンズの維持管理を他人任せにする論理と同じである。

③同様に、ジェンダー平等、良質な教育、良い仕事と経済成長など、一見したところコモンズとは関係のなさそうな SDGs の諸目標も、深く理解すると、フリーライダー問題として認識することができる。

出典：松島 斉（2024）『サステナビリティの経済哲学』（岩波書店）より一部改変。

注1：社会的包摂とは、社会的弱者を社会から隔離排除するのではなく、社会の中で共に助け合って生きていこうという考え方のことである。

注2：見えざる手とは、イギリスの経済学の創始者アダム・スミスのことばである。近代人の利己心を動機とする一見無秩序にみえる資本主義下の経済行為に自然秩序があり、それが調和をもたらし、公共の福祉を増進すると考えた。この秩序をもたらすものをいう。

注3：大義とは、ここでは、倫理的、社会的、哲学的な目的のことである。

注4：カタストロフィとは、突然の大変動や大きな破滅のことである。

注5：パラドックスとは、正しくみえる前提や論理から、納得しがたい結論に行きついてしまう問題のことである。

注6：インセンティブとは、動機付けのことである。

設問 I

下線部①に関して、現代における最も重要な社会問題とそのための目標について、筆者はどのように述べているか、600 字以内で要約しなさい。

設問 II

- (1) 下線部②に関して、コモンズの問題はなぜ解決が難しいのか、300 字以内で述べなさい。
- (2) 下線部③に関して、社会問題やあなたの身近にある出来事から、フリーライダー問題として認識することができる具体例を一つ挙げ、それがなぜフリーライダー問題であると言えるのか、300 字以内で述べなさい。